

「大江広元と息子たち一族の盛衰」

2019/2/6

横浜歴史研究会

長尾正和

はじめに

- ・ 源頼朝が鎌倉幕府を開設し、支配を確立するにあたり最も重要な役割を果たした人物の筆頭が政所別当を務めた大江広元である。かれは大江家という文官貴族の出身であったが、30代後半になって京から下向、源頼朝につく。
- ・ 広元には7男4女がいたとされる。その息子たちはいずれも幕府に重用され、次第に武士一族、あるいは高級官僚一族に変貌してゆくが、代々の当主たちは、鎌倉時代からあとの歴史の流れでどう対応し生き延び、あるいは歴史の表舞台から消えていったか。

1. 大江広元

1) 出自・人物

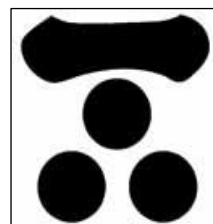
- ・ 1148・久安4年生（推定） 1225・嘉禄元年没 享年78
- ・ 実父大江維光（これみつ）。従四位、紀伝道の大家。養父中原広季。明法博士。
21歳で任官。24歳のころ**九条兼実**（すでに右大臣、のち関白、広元の1歳年下）の政務に奉仕。26歳で従五位下。
28歳時父維光没、母は中原広季と再婚。**中原氏**を称す。
- ・ 1183・寿永2年末から1184・元暦元年**37歳ころ鎌倉に下向**。
- ・ 1184・元暦元年 公文所を設置、別当に就任。
- ・ 1185・文治元年39歳 正五位下。4月公文所を**政所**と改める。59歳で別当を辞す。
- ・ 1214・建保2年67歳 正月 **正四位下**昇叙。正二位の頼朝に次ぐ官位。執権北条氏で正四位下は、泰時③、政村⑦のみ。
- ・ 1216・建保4年69歳 **大江姓**に戻す。政所別当に復職。
- ・ 1225・嘉禄元年6月没。享年78。この年7月には**北条政子**没。享年69。

2) 大江氏

- ・ 祖は**大江音人**、811・弘仁2年生。第51代平城天皇の第一皇子、**阿保親王**の子とする。

大江広元一族家紋

- ・ 「一に三ツ星」
- ・ 阿保親王の「一品」をデザイン化したもの。



- ・ **阿保親王** 810年「平城太上天皇（薬子）の変」で、処分に連座、大宰府に左遷。
- ・ 最終官位は「三品」。没後「一品」追贈。
- ・ 大江広元一族家紋の「一に三ツ星」は、「一品」をデザイン化。

3) 頼朝との関係

- 頼朝と親しかった広元の兄中原親能ちかよしの縁による。
 - ・ 1143・康治2年生、1208・承元2年没。享年66。
 - ・ 相模国波多野経家の下で養育。
 - ・ 1183・寿永2年41歳から頼朝側近としての活動は始まる。
 - ・ **京都守護**、1201年以後在京。
- 頼朝は朝廷の儀礼、手続き、文書等を熟知する公家出身の人物を必要とした。他に三善康信、二階堂行政等。

頼朝の人物像

- ・ 1147・久安3年4月生 1119・建久10年1月没 享年53。京都生まれ、育ち
- ・ 母藤原須江憲娘由良御膳。義朝3男
- ・ 正二位、権大納言、右近衛大将、征夷大将軍
- ・ 13歳で叙爵・従5位下、14歳の時伊豆配流
- ・ 「京洛を愛す」 京都との人的つながりを独占的に確保
- ・ 生まれも育ちも京都
- ・ 九条兼実による頼朝の印象「**威勢厳肅、其性強烈、成敗文明、理非断決**」（「玉葉」）

4) 主な事績

- 守護・地頭職制度設置**を建言
- 奥州合戦の正当性承認取り付け**

1189・文治5年7月 奥州合戦で藤原氏滅亡。

- ・ 頼朝は朝廷の許可を得られないまま出兵。11月広元上洛、朝廷にその正当性を追認させる。その功で出羽置賜郡・成島荘、八代荘、北条荘、寒河江荘の地頭職を得る。
 - ・ 広元が得た領地は最終的に出羽、上野、武蔵、伊勢等7か国に13荘・領以上。
- 朝廷情報確保と朝廷との手続き・交渉。**
 - ・ 上洛は1186年6月を始めとし、9年で6回。うち1190年と1195年は頼朝に供奉。
 - 源氏3代および北条執権政治を支える。**
 - ・ 広元と政子の没後、政治体制も変え、評定衆制度を導入した。

2. 広元の息子たち

1) 長男・親広ちかひろ：大江（寒河江）氏

- ・ 生年不詳、1242・仁治2年没。
- ・ 妻 **北条義時②娘 竹殿**。
- ・ 源（土御門、久我）みちちか通親の猶子となり**源親広**と名乗る。
- ・ 1192・建久3年 出羽寒河江荘地頭職 相続。



- ・ 1196年 頼家、1203年実朝の側近として父と共に活動。一貫して源姓。
 - ・ 1200・建仁元年 実朝元服時北条義時と共に陪膳を務める
 - ・ 1206年頃までに政所別当を辞した父広元のあとを務めた。
 - ・ 1216・建保4年 父広元の改姓に伴い大江姓を名乗る。
 - ・ 1219・建保7年2月、実朝③暗殺事件直後京都守護として上洛。
- 2) **次男・時広： 出羽長井家**
- ・ 生年不詳 1241・仁治2年没。妻 北条時房（義時②の異母弟）娘。
 - ・ 出羽国置賜郡長井荘（山形長井市、米沢市等）を受領。長井氏を称する。
 - ・ 1225・嘉禄元年 父広元の没後兄親広に代わり、**大江氏の惣領家**となる。
 - ・ 1232・貞永元年 北条泰時③が命じて収集した広元の関連する記録文書等を賜る。
 - ・ 1239・延応元年 **備後国守護**ともなる。奥州に加え西国に所領を得る。
- 3) **3男・宗元： 上野那波氏**
- ・ 生没年不詳
 - ・ 父広元所領の上野国那波荘（伊勢崎市周辺）を受ける。
 - ・ 1184年 秀郷流藤原氏の那波弘純は源義仲に付き敗戦、広元の所領となる。
 - ・ 宗元は弘純の養子の形で那波氏を継いだとする。
 - ・ 宗元嫡男政茂は引付衆。
 - ・ その後一族は室町時代半ばごろまで那波で長く勢力を維持したか。
- 4) **4男・季光： 安芸毛利氏**
- ・ 1202・建仁2年生 1247・宝治元年6月没 享年46。妻 三浦泰村妹。
 - ・ 広元の所領のうち**相模・毛利荘**（相模川西側、現厚木市及び愛甲郡周辺）、および**越後・佐橋荘**（元大覚寺統皇室領、現新潟柏崎市）を与えられる。
 - ・ 早くから毛利荘に定住、毛利姓を名乗る。
 - ・ 1221年20歳 **承久の乱** 執権北条義時②の子泰時③の主戦力である東海道方面軍に加わる。美濃国木曾川、および山城国宇治川・淀川の突破戦で武名をあげる。
 - ・ この功により**安芸国吉田荘**（広島・安芸高田市）の地頭職を得る。
 - ・ 1233・天福元年32歳 **評定衆**就任。
- 5) **5男・^{ただしげ}忠成： 三河・海東氏**
- ・ 生年不詳 1265・文永2年没 官位 従四位下。
 - ・ **三河国海東荘**（愛知県海部（あま）市周辺）を得る。のちに**海東姓**を名乗る。
 - ・ 1245年 **評定衆**就任。1247年 兄の季光に連座して罷免された。
 - ・ 代々は六波羅評定衆も務めている。
 - ・ のちの徳川四天王・酒井氏はその**祖**を**海東忠成**としている。
- 6) **6男・尊俊、7男・重清**
- ・ 尊俊 大津・園城寺（三井寺）大僧都、5男、6男の順は定かではない。

- ・ 重清(猶氏) 水谷氏

3. 鎌倉時代 大江一族危機

1) 大江(寒河江)氏

a. 親広①

- ・ 1221・承久3年 **承久の乱** —大江(寒河江)氏危機#1
- ・ 後鳥羽上皇が北条義時②追討の院宣を発して挙兵。
- ・ 義時、三浦義村、安達景盛らとの軍議で、箱根・足柄で徹底抗戦との慎重論。
- ・ これに対し、広元74歳は、京への積極的な出撃を主張。北条政子も同意見。
- ・ 親広は官側として参戦。
- ・ 2千騎の軍勢を率いて美濃(木曾川南)に布陣するも、途中逐電、寒河江荘吉川邑へ。
- ・ **嫡男・佐房**は幕府側に付き東海道方面軍として参戦、木曾川の先で朝廷軍を破る。この功により佐房は**信濃上田荘**を与えられ、上田氏の祖となる。
- b. 親広はなぜ**官側**についたか。
 - ・ 京都守護であり、後鳥羽上皇からの働き掛けもあったと考えられる。
 - ・ 源通親の猶子であり、まだ武家意識より公卿意識が強かった、あるいは朝廷への忠義を図ったか。
 - ・ 朝廷側は厳しく処分されたが、広元、佐房、弟季光等の一族の活躍もあり親広への追及は苛烈なものではなかった。
 - ・ 1232・貞永元年 **御成敗式目(貞永式目)**で寒河江荘地頭職が追認される。

2) 出羽長井家

a. 泰秀②、時秀③、

- ・ 泰秀 出羽長井荘を継ぐ。
- ・ 共に評定衆、引付衆として幕府中枢にいた。
- ・ 大江総領家としての扱いが明確であった。

b. 宗秀④ 霜月騒動と長井家危機#1

- ・ 1265・文永2年生 1327・嘉暦2年没 享年63。
- ・ 執権⑧時宗より偏諱。妻は北条実時(金沢文庫創始者)娘。
- ・ 1285・弘安8年**霜月騒動**で失脚。母が安達泰盛の姉妹。
- ・ 1293・正応6年**平禅門の乱**ののち宗秀は復権。執奏、評定衆などを歴任した。
- ・ **吾妻鑑**の編者の一人が、この宗秀ではないかとされる。

➤ 霜月騒動

1285・弘安8年 安達一族の滅亡

- ・ 1285・弘安8年11月 平頼綱側が貞時⑨邸に出仕した安達泰盛を襲い大きな合戦となり、泰盛が、嫡子宗景、弟長景等一族とともに自害・討死。

➤ 平禅門の乱 1293・正応6年

- ・ 貞時⑨は平頼綱が絶大な権勢をふるうことに疑いを抱く。
- ・ この年5月、鎌倉大地震に乗じ平頼綱を討つ。
- ・ その一族93人を自害・討ち死にさせた。

c. **備後長井家 泰重**

- ・ **泰秀②**の弟**泰重**は1252・建長4年周防国、備前国守護。
- ・ のち父時弘の**備後国守護**も受け継ぐ。妻は海東忠成娘。
- ・ **六波羅探題評定衆**として京都に住む。
- ・ その後代々は鎌倉時代末期まで、「六波羅評定衆家」を受け継いでいる。
- ・ 泰重の孫貞頼は足利尊氏につく。足利幕府（京都）に長井姓の上級官僚多し。

3) **安芸・毛利家**

a. **季光①**

- ・ 1247・宝治元年 46歳 **宝治合戦－毛利家危機 # 1**
- ・ 妻 三浦泰村妹 三浦氏方に付き敗北。
- ・ 三浦泰村ほか一族 500人ほどは自害。季光も鎌倉法華堂で息子らと共に自刃。
- ・ 季光娘は時頼⑤（宝治合戦前年1246年就任）正室。合戦後離別。
- ・ 大江総領家長井康秀②が毛利家の存続に尽力。季光4男経光が毛利姓と佐橋荘・安芸吉田荘を継ぐ。

b. **経光②**

- ・ 季光四男。生没年不詳。将軍・藤原頼経④より偏諱。
- ・ 経光は佐橋荘に居を構え、のちに長男基親（毛利家惣領職、北条毛利氏、また、謙信の軍奉行）に佐橋荘北部を、1270年ごろ4男時親に佐橋荘南条と安芸吉田荘を与えた。

▶ **宝治合戦： 1247・宝治元年6月**
－ **三浦一族の滅亡**

- ・ 将軍派であり、北条氏に対抗しうる最大の勢力を持つ有力御家人であった三浦氏一族が、北条・安達両氏を中心とする幕府軍の攻撃を受けて滅亡。
- ・ 合戦ののち、時頼⑤を頂点とする得宗家勢力の独裁体制が確立。

4. **建武新政から室町・南北朝時代**

1) **大江(寒河江)氏**

a. **高元②－元彰⑤** 幕府官職に復帰 在鎌倉 元顯⑤は霜月騒動で下向。

b. **元政⑥**

- ・ 元政⑤生年不詳。因幡守。従5位下。
- ・ 1335・建武2年 元政⑤は南朝・陸奥守・鎮守府将軍・北畠顕家19歳軍の主力武将として参戦。この年尊氏軍を京より駆逐、
- ・ 1336・建武3/延元元年2月 豊島河原合戦でも活躍。11月室町幕府成立。
- ・ 1351・観応2/正平6年 元政⑥は以前北条氏が没収した北寒河江荘回復を果たす。
- ・ 1356・延文元/正平11年 尊氏（1358年没）は**斯波兼頼**を出羽按察使として派遣。
- ・ 1359・延文4/正平14年 **元政**は**斯波兼頼**と争い、**弟懐広・顕広**とともに討死。

c. **時茂⑦と時氏⑧**

- ・ 1368・応安元/正平23年 ^{うるしがわ}漆川の戦い－**大江（寒河江）家危機 # 2**

- ・ 時茂は嫡男茂信を総大将とした軍で北朝側羽州探題斯波兼頼・奥州探題大崎直持勢の大軍と漆川（最上川支流）で全面对決。茂信以下一族全員、61名が自害する大敗。北寒河江荘を再び失う（出羽における南北朝の戦い）。
 - ・ 1373・応安6/文中2年 時茂は4男時氏⑧に北朝側に和を乞うて降るべきと遺言。
 - ・ 時氏⑧降伏、和睦、6歳の長男元時⑨を足利義満に人質として差し出し、本領安堵。
 - ・ 時氏の代に大江姓を廃し、**寒河江を称する**ようになる。
- d. なぜ大江（寒河江）家はここまで**南朝にこだわった**か。
- ・ 後醍醐天皇の側近として、常に南朝勢力の中心にいたのは**北畠親房、顕家、顯信**。
 - ・ 北畠家の祖は**源通親 5男通方**。大江寒河江家の祖である**源親広とは義兄弟**。
 - ・ 代々は北畠家と同族との意識だったのではないか。

2) 出羽・長井家

- a. 貞秀⑤ 従5位
- b. 拳秀⑥ 1333年 鎌倉幕府滅亡時、後醍醐側に付いたが、のちに尊氏側。
- ・ 執事として室町幕府の中枢にいた。
- c. 長井荘 隣国伊達氏の執拗な侵攻により、1385・元中2/至徳2年奪われる。
- ・ このころの当主名不明。**長井家危機 # 2**。
 - ・ 長井氏は基本的に鎌倉在で文官官僚、領国支配が強固ではなかったためか。
- d. 備後長井家は毛利元春⑤5男広世を養子を迎え、のちに毛利福原氏となった。

3) 安芸・毛利家

- a. **時親③** — **毛利家危機 # 2**
- ・ 生年不詳 経光4男 1341・暦応4/興国2年没。享年は80代半ばと推定。
 - ・ 1270・文永7年 越後佐橋荘南条、安芸吉田荘の地頭職を相続。
 - ・ 六波羅探題評定衆を務め、京都勤務だが本拠を佐橋荘南条館とする
- b. **親衡④**
- ・ 嫡男貞親(佐橋荘北条相続)は南朝へ参戦。
 - ・ 1333・元弘3年閏2月 貞親嫡男親衡も後醍醐天皇の船上山での呼びかけに応ず。
 - ・ 1334・建武元年 安芸吉田は建武の新政の新政府により一時取り上げられる。
- c. **元春⑤**
- ・ 1335・建武2年12月 時親曾孫元春は尊氏軍につき安芸吉田を奪回。
 - ・ 1336・建武3年 時親は本拠を吉田荘に移す。吉田荘を**元春(師親)⑤**に譲る。
 - ・ 一方貞親、親衡の北朝方への帰順を説得、安芸吉田に4代が集住。
 - ・ 1376・永和2年 元春⑤は足利義満から本領安堵。
- d. 後世の毛利家では、**時親**を安芸毛利家の基礎を築いた人物とする。

5. 戦国時代から江戸幕府発足まで

1) (大江) 寒河江家

a. 高基¹⁸ (大江) 寒河江家危機 # 3

- ・ 1584・天正 12 年 (足利家との和睦から 210 年のち) 祖を斯波兼頼とする最上家 11 代義光が出羽統一を願い孝広¹⁵のころから寒河江を攻略
- ・ 高基¹⁸はこの年、最後の戦いに敗れ一族と共に自刃。大江 (寒河江) 家嫡男家滅亡。

b. (大江) 寒河江一族 最上義光の家臣の寒河江庶流家

- ・ 寒河江肥前守は 27,000 石で、一時寒河江城主。

c. (大江) 寒河江拾兵衛元茂

- ・ 1614・慶長 19 年 1 月義光が病死したとき、その葬儀の日に墓前で寒河江肥前守、寒河江拾兵衛元茂を含む 4 名の家臣が殉死した。
- ・ 最上家 3 代 (義光、家親、義俊) の菩提寺、山形・光善寺の義光の墓前に碑あり。
- ・ 寒河江拾兵衛元茂は (大江) 寒河江知広¹³の 6 世孫 (庶流)。
- ・ 子孫は最上家改易ののち、会津蒲生家、会津加藤家、山形・越前松平家に仕官、その後代々は奉行職格の家として務め明治に至る。
- ・ 定紋は「品一」、別紋は「一に三ツ星」

2) 毛利家

a. ^{もとなり}元就¹³

- ・ 1497・明応 6 年生 弘元¹⁰次男
- ・ 1516・永正 13 年兄興元¹¹25 歳急死、その子幸松丸¹²2 歳の後見人。
- ・ 1523・大永 3 年 7 月 幸松丸 9 歳で没。家臣の推挙により 27 歳で毛利家を継ぐ。
- ・ 1540・天文 9 年尼子晴久を、1555・弘治元年大内氏を破り、安芸一国支配。

b. 隆元¹⁴

- ・ 1546・天文 15 年元就隠居 隆元¹⁴24 歳で相続。実権は父元就。
- ・ 1560・永禄 3 年 足利義輝より安芸国守護安堵、
- ・ 1562・永禄 5 年 備中・備後・長門守護、1563・永禄 6 年 周防守護。

c. 輝元¹⁵

- ・ 1563・永禄 6 年 8 月 隆元急死 輝元¹⁵ 11 歳で相続 (1553・天文 22 年生)
- ・ 1571・元亀 2 年元就没 (武田信玄没 2 年前) 享年 75 没後従三位。明治に正一位
- ・ 1591・天正 19 年 1 月 居城を安芸郡山城から広島城へ。112 万石所領安堵。
- ・ 1595・文禄 4 年 従三位。秀吉 5 大老の一人。

d. 1600・慶長 5 年 関ヶ原の戦い - 毛利家危機 # 3

- ・ 輝元は西軍総大将。敗北後、吉川広家(父元春は元就次男)の仲介により、お家取り潰しは免れ、周防・長門の 2 か国 29 万石へ減封。
- ・ 1600・慶長 5 年 10 月 秀就相続。秀就正室は結城秀康娘。
- ・ 1604・慶長 9 年 長門に萩城築造。
- ・ 1613・慶長 13 年表高 36.9 万石へ。幕末実質 100 万石超。

- ・ 1625・寛永2年4月 輝元没。
- e. 「三子教訓状」による結束－元就の功績
 - ・ 1557・弘治3年元就61歳、息子たち、毛利隆元・吉川元春・小早川隆景に記す。
 - ・ 「第1条 何度も繰り返して申すことだが、毛利の苗字を末代まで廃れぬように心がけよ。」
 - ・ 「第2条 元春と隆景はそれぞれ他家（吉川家・小早川家）を継いでいるが、毛利の二字を疎かにしてはならぬし、毛利を忘れることがあっては、全くもって正しからざることである。・・・」（現代語訳－Wikipediaより）

以上

主な参考資料

- ・ 上杉和彦 「大江広元」吉川弘文館
- ・ 高橋典彦 「源頼朝」山川出版社
- ・ 関幸彦 「北条時政と北条時子」山川出版社
- ・ 河合正治 「安芸毛利一族」吉川弘文館
- ・ 山本幸司 「頼朝の天下草創」講談社学術文庫
- ・ 近藤成一 「鎌倉幕府と朝廷」岩波新書
- ・ 伊藤清郎 「最上義光」吉川弘文館
- ・ 群馬県立文書館所蔵 『寒河江家文書』
- ・ 阿部西喜夫・宇井啓 「ふるさと寒河江の歴史」山形県寒河江市
- ・ 関係地方史、郷土史、WebSite、Wikipedia 等

図1 出羽・大江（寒河江）家系図

WS「武家家伝 寒河江氏」より作成

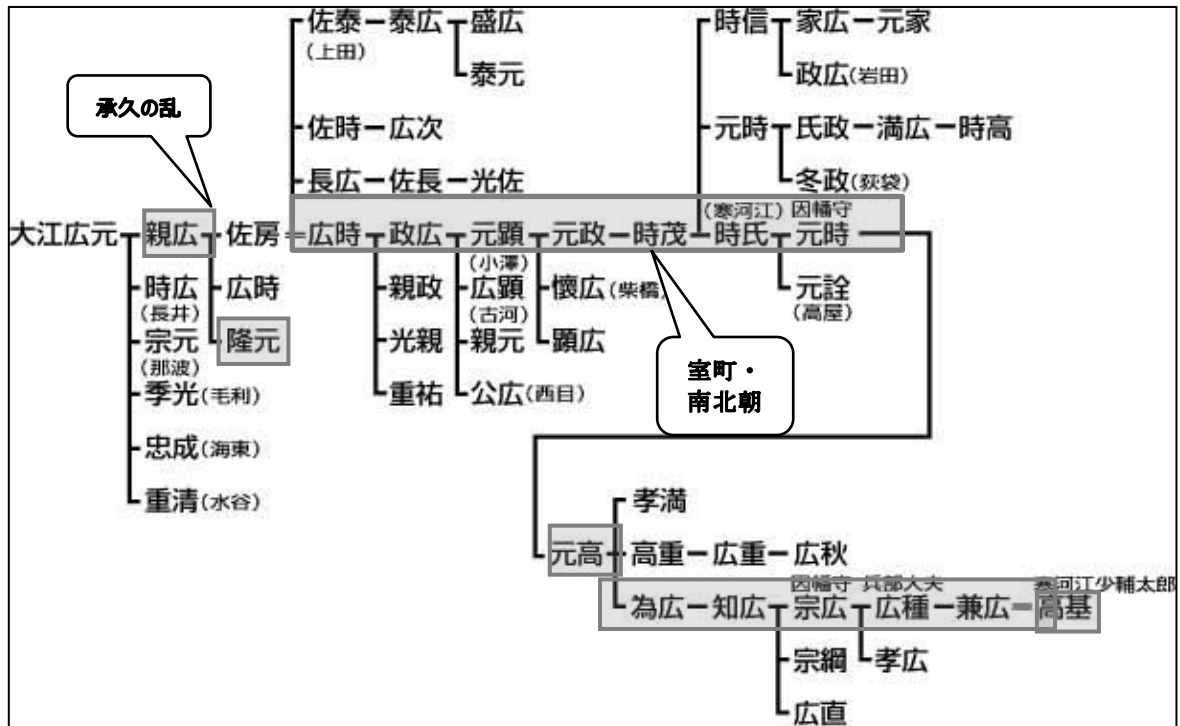


図2： 出羽・長井家系図

WS「武家家伝・長井氏」より作成

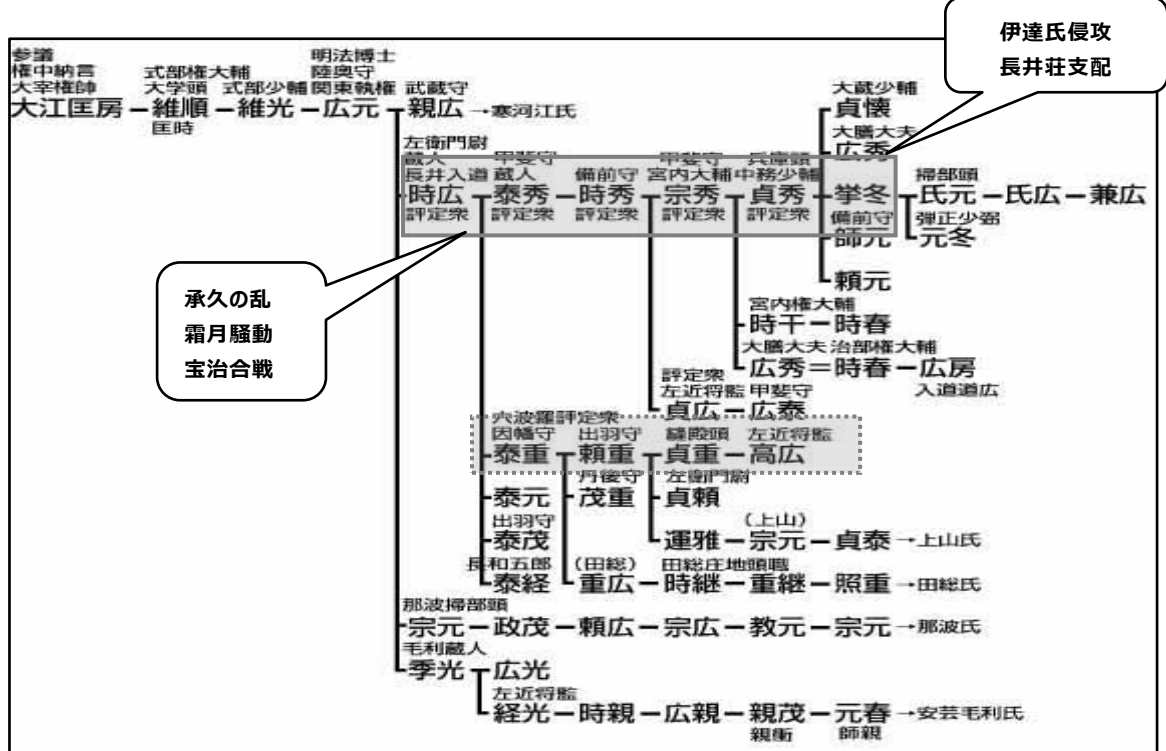


図 3: 安芸・毛利家系図

河合正治「安芸毛利一族」より作成

